



時代に即してパワーアップ

宮崎大学大学院 教育学研究科

教職実践開発専攻(教職大学院)のご案内

Professional Teacher Development Program
Graduate School of Education, University of Miyazaki



深い学識・卓越した実践力・応用力を培う！

教職実践開発専攻	
教職実践高度化コース	教育行政・学校経営分野 (管理職養成を含む)
	生徒指導・教育相談分野
	教育課程・授業研究分野
教科領域指導力高度化コース	言語教育系(国語、英語)領域
	理数教育系(数学、理科)領域
	社会認識教育系(社会)領域
	芸術教育系(音楽、美術)領域
	スポーツ・生活科学教育系 (保健体育、技術、家庭)領域
特別支援教育コース	



教職実践開発専攻は、学校教育に関する理論及び応用を教授研究し、高度の専門性が求められる教職を担うための深い学識及び卓越した実践力、応用力を培うことを理念としています。そして、学部における専門教育又は教職経験の基礎の上に、確かな教育観と幅広い視野を持ち、教職としての高度の実践力・応用力を備えた、地域に根ざす学校づくりの有力な一員となり得る新人教員及び指導的役割を果たし得る教員の養成を目的とします。

学びがい・学びを支える仕組み

	現職	学生
学びがい	<ul style="list-style-type: none"> 自身の実践を自己分析することにより実践の意味づけができる 「理論⇄実践」により、新たな実践的指導力が構築される 	<ul style="list-style-type: none"> 3回の実習(平均30時間以上の授業実践⇄省察)により、授業イメージが明確になる →理論と実践の繋がりをより実感できる 一年間の学校生活の見通しがもてる
学びを支える仕組み	<ul style="list-style-type: none"> 就学は2年、学費は1年分 2年目は働きながら学ぶことができる 多様なニーズにこたえるための様々な学びのシステムを準備 → 個々に問い合わせを 	<ul style="list-style-type: none"> 教員採用試験合格者は大学院修了まで有効(宮崎県希望卒の学生も対象) 大学院にて所定の要件を満たせば、教員採用試験1次免除の特別措置 正規教員として採用される修了生に対する奨学金返済免除(最高月額88000円)

教職実践開発専攻（教職大学院）の概要

（1）特徴

- ① 宮崎県及び宮崎市の教育行政機関と連携して、教職としての高度の実践力・応用力を備え、地域に根ざす学校づくりの有力な一員となり得る新人教員、及び教職としての高度の実践力・応用力を備え、地域や学校における指導的役割を果たし得る教員に必要な確かな教育理論と優れた実践力・応用力を備えたスクールリーダーの養成を行います。現職の教員については大学院設置基準第14条の履修制度を利用した修学も可能です（一部の必修科目は通常の平日昼間の時間帯に受講する場合あり）。また、大学卒業後常勤3年以上の社会人経験を有するものの、教員免許状を取得していない人にも、教職としての高度の実践力・応用力を備えた新人教員への道を開いています。
- ② 授業は、教育に関する理論と実践の融合を視野に入れて、専任の研究者教員（14名）、実務家教員（6名）、及び学部との兼任教員（48名）の協働によって進められます。
- ③ 各コースとも、研究者教員と実務家教員の協働による授業科目を設定するとともに、現職の教員、大学卒業見込み・卒業者等及び社会人経験者の学修歴に配慮した内容や学習方法を準備しています。
- ④ 修了者には、専門職学位「教職修士（専門職）」が授与されます。また、各校種の専修免許状が取得できます。



（2）各コースの特色

【教職実践高度化コース】

教職実践高度化コースは、「教育行政・学校経営分野」、「生徒指導・教育相談分野」、「教育課程・授業研究分野」という3つの分野から学生自身がどの分野を中核として学ぶかを選択し、学生それぞれの学習歴・実務歴に合った学びのプロセス構築が可能になっています。各分野に関する教育理論を学修するとともに、学校現場での事例分析等、理論を活用した具体的な実践の意義づけとそれを踏まえた実践プランの再構築といった、理論と実践の往還を可能とする自立的・共同的な成長する教員としての資質・能力の修得を目指した科目を取り入れています。



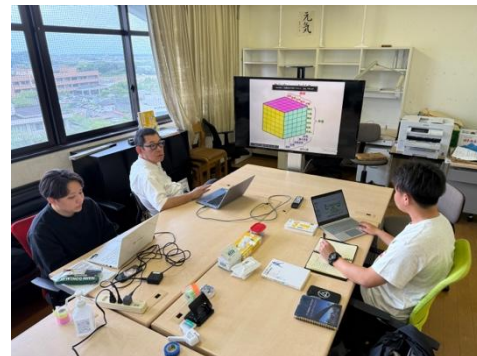
「教育行政・学校経営分野」

教育行政・学校経営分野では、教育法規を学び公教育の法律主義を理解したうえで、学校・学級経営、教育評価、地域連携、研修プログラム開発を学びます。将来の指導主事やスクールリーダーを養成します。理論と実践の往還の実践として、教育委員会定例会や小規模特認校への実地見学だけでなく、危機管理能力向上のために、さす又や記者会見の実技演習も実施しております。課題研究では、「教員の働き方改革」や「ルーブリック評価」、「地域教育経営計画」や「研修プログラム開発」に取り組み、積極的に学会発表と学会誌への投稿に取り組んできました。

また、教育行政・学校経営分野には管理職養成を担う科目を設定しており、将来の管理職をめざす現職教員や教育行政職員などを対象に、キャリアに合わせた学習が可能な構成になっています。

「生徒指導・教育相談分野」

生徒指導・教育相談分野では、SSTや構成的グループエンカウンターなどの技法を用い、レジリエンス教育、スクールワイドPBSの実践などの場で、発達支援的・課題予防的生徒指導を軸に企画・実践する力量を養います。また、QUやアセス、代表的な知能検査、各種行動評価等のアセスメントの実施や結果に基づいて、指導や支援を行うための知見と技量を高めます。また、教育支援教室、児童自立支援施設、鑑別所等の学外の施設に赴いて学びを拡げています。さらに、教育相談における傾聴技法や通常の学級に在籍する発達障害の特性をもつ児童・生徒の理解、ケースフォーミュレーションやカンファレンスなどで、支援を計画・実践するための知見と技量を高めます。この分野のカリキュラムは、学校心理士（一般社団法人学校心理士認定運営機構）の資格取得に合致した構成になっています。



課題研究は、「抑うつ予防プログラム」と「社会的問題解決」が「レジリエンス教育」へ、また、「生徒指導上の教職スキル」が「スクールワイドPBS」へと融合・進化しながら行われてきました。

安心して授業やその他の活動に取り組める環境を自ら作れるよう児童・生徒を導き、人生の中で経験する様々な問題事態に対して知恵と社会性を駆使して乗り越えていく力量形成を目指します。時代に即した課題に対して、主に心理学的な実践や調査の研究技法を用いて科学的な視野での研究に取り組んでいます。

「教育課程・授業研究分野」

教育課程・授業研究分野では、学習集団づくりを含めた授業実践力を育成するために、授業づくりや授業分析の手法を学び、授業の相互検討や議論を通して、自分自身の授業実践を省察する力を育成します。また、熟練教師の授業視察・検討を通して、学校現場のさまざまな状況や子どもの実態に応じた指導の手立てや授業のあり方を学習します。

教育課程に関しては、カリキュラム・マネジメントについて、講義とフィールドワークを通して理論的・実践的に学習します。また、学校の全教育活動に関わる道徳教育、特別活動、情報メディア教育についても、具体的な実践や実践事例を通して理論的に学習します。これらの学習を通して、教育課程と授業・学級経営との関連性・相互性についての知見を深めます。

【教科領域指導力高度化コース】

教科領域指導力高度化コースは、コース必修・選択科目と「教育実習科目」との連動によって、より児童生徒の実態を踏まえた授業実践・分析・評価・改善といった実地的な学修が可能です。指導力の改善・検証のみならず、学校現場をフィールドとした実地的・実践的な学びを通じた教科領域の教育に関する指導力の高度化が可能な設定になっています。

教育内容の分析、教材開発、授業計画の作成と実践後の省察等、すべての教科授業の基礎となる高度な実践的思考力の形成を図るため、教科横断型3科目6単位のコース必修科目を設定しています。また、各学生が得意とする教科領域における、より専門性の高い教育内容開発のために、言語教育系・理数教育系・社会認識教育系・芸術教育系・スポーツ／生活科学教育系の5領域において多様なコース選択科目を設置しています。



【特別支援教育コース】

特別支援教育コースは、「特別支援学校教員の専門的指導力の向上」を目指して、「医療、福祉等の外部専門家と連携しながら、医学や科学技術の進歩に対応した指導法や指導技術の習得、研究を推進する」ことが可能となるような授業科目、実習科目でカリキュラムが設計されています。具体的には、児童生徒の実態把握に不可欠なアセスメント技法や特別支援学校の教育課程を編成し、教育目標に即して各授業を構成・展開する力を実践的に習得できるように、アクティブラーニングを積極的に取り入れた授業構成となっています。また、「障害のある子どもの事例研究法」等での学びを課題研究に応用することで、理論や根拠に基づく高度の教育実践や実践研究の力量形成を図ります。「特別支援教育コーディネーター論」等では、地域の医療・福祉・労働などとの「多職種連携」について理解を深め、校内支援体制の構築やセンター的機能の充実に資する力量も形成していきます。



なお、指定科目の単位修得により特別支援学校教諭専修免許状だけでなく、「特別支援教育士」（一般社団法人特別支援教育士資格認定協会）の資格取得に必要な講義ポイント全30ポイントのうち16ポイントを取得することが可能です。また、「コーディネーター実習」を履修して修了した現職教員は、宮崎県教育委員会主催の「上級特別支援教育コーディネーター養成研修」の受講認定も可能です。

修了生のメッセージ

宮崎大学教職大学院の
紹介動画はこちら



松ノ木 陽平 さん

【義務教育学校 教頭】
教職実践高度化コース
教育課程・授業研究分野
(令和3年度修了)



教職大学院では、多忙な現場で忘れがちな教育の基本を学び直すことができました。特に、「困った子ども」ではなく「何かに困っている子ども」という視点を持ち、子どもの事実から授業改善や支援を考える大切さを学びました。学校現場では、Q-Uテスト等のアセスメントを活用した積極的な生徒指導や、スクールワイドPBSの推進、学校運営協議会を通じた地域との連携に取り組んでいます。教職大学院での学びを通して、「できるわけがない」と諦めていたことにも挑戦しようと思えるようになりました。進学を迷っている皆さんも、ぜひ一歩を踏み出してください。その学びは、きっと学校や地域をよりよくする力につながるはずです。

橋口 伽奈子 さん

【教育委員会 指導主事】
教職実践高度化コース
教育課程・授業研究分野
(令和6年度修了)



教職大学院では、最新の教育知識や実践的な学びを通して、今の子どもたちに合った指導について深く考えることができました。多様な実践例を学ぶ中で自分の引き出しが増え、学校現場では柔軟なアイデアを活かした指導につなげることができました。現場を離れる不安もありましたが、その時間が自分自身を見つめ直す貴重な機会となり、新たな視点で子どもたちに向き合えるようになりました。また、そこで築いた人とのつながりは、今でも大きな支えです。教職大学院での学びは、自分の自信やキャリアへの意欲につながりました。迷っている方には、ぜひ一歩踏み出してほしいです。

能勢 優子 さん

【小学校 教諭】
教科領域指導力高度化コース
言語教育系（国語科）
(令和4年度修了)



私は今、宮崎の小学校で子どもたちと向き合っています。教職大学院では「全員が参加できる授業」をめざし、国語の挿絵を手がかりに読解を深める学習を研究しました。学校現場では『ごんぎつね』の絵本比較や『ちいちゃんのかげおくり』の表情絵づくりなどの実践をしました。絵をきっかけに「どうして？」と問うと、子どもたちが本文を読み直しながら「だって…」と考えを紡ぎ出す姿に、大きな手応えを感じています。研究者教員、実務家教員、現職院生など、多様な「先生」との出会いが、私の中に「学び続ける教員」という像を確かにしました。教職大学院で学ぶことは、みなさんの目指す教員像をより豊かに広げてくれるはずです。

渡邊 直人 さん

【中学校 教諭】
教科領域指導力高度化コース
社会認識教育系（社会科）
(令和2年度修了)



教職大学院では、同じ教員を志すストリート院生と現職のメンター先生とともに、学級経営や生徒指導の教員として、学びを深めることができました。中でも、いちばんの学びは、社会科教員として「自分の社会科の授業で育成したい資質・能力（生徒の姿）」を明確にすることができたことです。これは、これまでの教員生活で、授業実践だけでなく学級経営や生徒指導など、子どもたちの成長に関わるうえで、常に意識する私の信念となっています。ぜひ、教職大学院で、じっくりと学びを深め、教員人生の支えとなるあなただけの信念を探しに来てください。

※進学・入学相談は、個別にもお受けいたしますので、お気軽にご連絡ください。

日程と場所をご相談させていただきます。

お問い合わせ先 宮崎大学教育学部 教務・学生支援係 TEL 0985-58-2890